

今日のトピック 日本株式市場の見通し グローバルPMIの上振れと円安で堅調な展開を予想

ポイント1 グローバルPMIに上振れ期待 底堅い内需を背景に堅調

- 6月は米国や中国の製造業「購買担当者景気指数（PMI）」が事前予想を上回るなど、今後グローバルベースで製造業PMIが上昇局面入りする可能性があります。グローバルな景況感と、日本企業の収益見通しの上振れ度を見るリビジョン・インデックスは密接に関係しており、グローバルな景況感が上向いて来れば、業績の上振れ期待も高まると思われます。

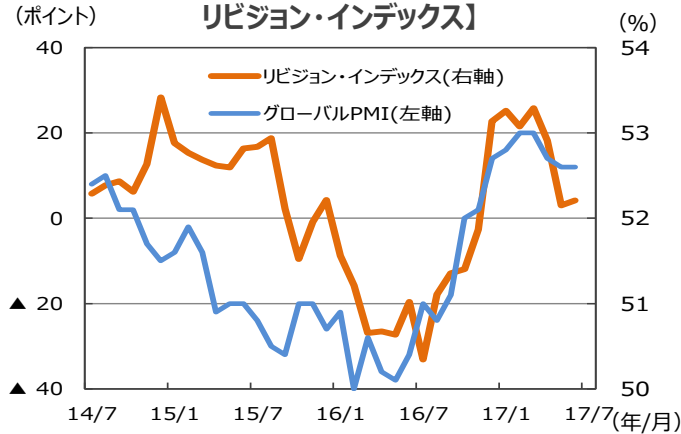
ポイント2 円高リスクが後退 金融政策の違いが背景

- 一方、主要国の金融政策は、今後一段と違いが表面化すると見られます。米国の連邦準備制度理事会（FRB）は9月の連邦公開市場委員会（FOMC）で保有資産の削減か、追加の利上げを実施する可能性が高まっています。欧州中央銀行は9月の理事会で量的金融緩和政策の縮小を公表し、18年から開始すると見られます。日本は現状の金融政策を維持すると見られ、金融政策の違いから円安余地が拡大したと思われます。

今後の展開 年初来高値を追う展開へ

- 今後のリスクとしては、通商摩擦に端を発した円高が挙げられます。しかし、金利差などから見て極端な円高や円安はいずれも回避されると考えられます。また、内閣支持率の低下もリスク要因ですが、政権への期待は一巡しており、さらなる波乱要因になる可能性は低いと見られます。
- 堅調な世界経済と円高リスクの後退で日本株式市場は年初来高値を追う展開が期待されます。

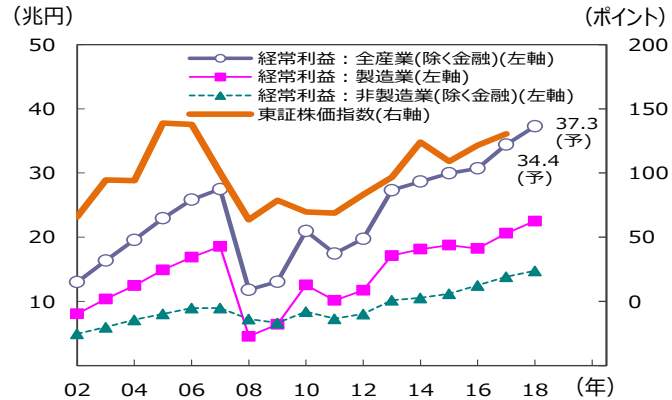
【グローバルPMIと日本企業のリビジョン・インデックス】



(注) データは2014年7月～2017年6月。日本企業のリビジョン・インデックスは(増益企業数-減益企業数)÷企業数×100。グローバルPMIはJPモルガングローバル製造業PMI。

(出所) Bloomberg L.P.、Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【日本企業の経常利益と東証株価指数の推移】



(注) 東証株価指数は2002年度～2017年度末値。2017年度は7月10日現在。2007年度=100。

経常利益は2002年度～2018年度。2017、2018年度は三井住友アセットマネジメント予想。全産業(除く金融)は224銘柄(製造業134銘柄、非製造業(除く金融)90銘柄)。予想の前提：ドル/円レート110円、ユーロ/円レート120円、原油価格50ドル/バレル。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年7月10日 米国株式市場の見通し 情報技術セクターの動向と今後の見通し 2017年7月 7日 テクニカル関連指標等から見た日本株式市場の動向 (2017年7月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。